

第190回 番組審議会

1. 日 時 平成22年3月9日 (火) 12:00～
2. 場 所 メトロポリタン盛岡NEW WING 3F「星雲 東の間」
3. 委 員 委員総数 13名
出席委員数 10名 (欠席委員数 3名)

○ 出席委員 (敬称略)

中村 慶久 (委員長)
椎井 一意 (副委員長)
—以下50音順—
斎藤 雅博
東海林 千秋
菅原 正二
中川 真
中原 祥皓
村上 幸子
八木橋 伸之
吉田 浩次

○ 会社側出席者 (5名)

佐藤 滋樹 (代表取締役社長)
小原 忍 (専務取締役)
藤澤 利憲 (常務取締役)
前田 秀男 (取締役編成技術局長)
寺沢 樹里 (めんこいエンタープライズ 制作部)

○ 事務局 村田 重昭

4. 議 題 FLY ～はばたけ！岩手の若者たちよ～

平成22年1月2日（土） 9：55～10：30 放送

5. 議 事 概 要

今回は「FLY ～はばたけ！岩手の若者たちよ～」について審議しました。

出席した委員からは「1年間を通して活躍した岩手の若者たちの姿を見て勇気と感動をもたらした」「花巻東高校野球部だけではなく、登山や社交ダンス、将棋や箏曲なども取り上げたことは良かった」などの意見がありました。

また、一方で「撮り貯めたニュース映像を再構成するだけでなく、追加取材がほしかった」「勝ち負けだけにこだわらず、日頃頑張っている選手も取り上げてほしい」「岩手のスポーツの課題を掘り下げるような番組も作ってほしい」などの意見がありました。

6. 議 事

○事 務 局

ただいまより第190回番組審議会を開催いたします。

本日まで出席の委員は10名、ご欠席は久慈委員、斎藤純委員、役重委員の3名です。

それでは中村委員長、お願いいたします。

○中村委員長

では、議事に入ります。

本日は3月1日に岩手めんこいテレビにおいて実施された訂正放送について、事務局から報告があります。

○事務局

3月1日に岩手めんこいテレビが実施した訂正放送について、放送法第三条の四の規定に則り、ご報告いたします。

3月1日朝の情報番組「とくダネ！」で、午前9時8分40秒からCMを挟み2回にわたり計5分21秒間「岩手県沿岸に津波注意報」と画面にスーパーを入れるべきところ「注意

報」を「警報」と誤って放送いたしました。原因はマスター運用者のスーパー素材の選択ミスです。

この間違いに対する訂正放送を、同日の午前11時50分にローカルニュースの枠内で実施いたしました。この件に関して視聴者からは、スーパーを「注意報」に修正した後に1件の問い合わせがありました。

人為的なミスから起きたことですので、今後は操作に対するダブルチェックをよりしっかり行うよう担当部署内に周知徹底いたしました。

訂正放送に関する報告は以上です。

○中村委員長

それでは、本日の議題の審議に入ります。

議題は、1月2日に放送されました「FLY ～はばたけ！岩手の若者たちよ～」です。寺沢さんから、今回の番組の背景などについて説明をいただきたいと思います。

○寺沢ディレクター

2009年は花巻東高校野球部に代表されるように、岩手の若者たちの活躍に目覚しいものがありました。今回の番組は2009年に報道部で取材したニュース映像を再編集したものです。

紹介する選手やチームについては報道部と協議をして決定しました。花巻東高校の活躍がニュースなどで非常の多く取り上げられていましたが、なるべくそれ以外の高校や文化部の活動も取り上げたいと思い、時間も長めにしました。若者が「未来に向かってはばたく」がテーマになっていますので、「FLY」というタイトルにし、爽やかさが出るようなBGMを選びました。

また、お正月の放送ということもありましたので、優勝には至らなかった花巻東高校の敗れるシーンや、グルージャ盛岡が決勝大会で敗退するシーンについては、なるべく軽めにしています。

ニュースをもう一度見るという感覚ではなく、ドラマチックなところが出るように演出しております。この番組では、あまり注目される機会が少ない高校や種目も紹介しました。例えば社交ダンス日本一の女子高校生については、私も初めて知りました。ぜひ、今年も若者たちが活躍して、このような番組を作ることが出来ればいいなと思っています。

○中村委員長

では、中川委員をお願いします。

○中川委員

最初、この番組を見たときはどのような視点で評価すればいいのか悩みました。スポーツドキュメンタリーであれば率直に言って総花的で食い足りないと感じました。今、説明を聞いて、1年間の総集編で、さらに味付けしたということであれば、僕も知らないようなダンスや登山部などもあって面白いと思いました。再取材は大変だと思いますが、視聴者が関心をもつような種目とか、人に絞ってもう少し詳しくやってもらったら面白かったと思います。例えば登山の縦走に筆記試験があることも興味深かったです。ダンスで女性同士のカップルの種目があって、宝塚のようで全く知らない世界だったので新鮮に感じました。

全体を見て感じたのは岩手の若い人たちはすごく可能性を秘めているということです。最初の小林選手はK点まで2メートル足りなかったという話がありましたが、そういったことが花巻東を含めて全体に通じるテーマだったと思います。その“悔しさ”とか、佐々木監督が言っていた“底上げ”といった点にもう少し踏み込んでほしかったです。今度はスポーツドキュメンタリーという形でぜひ拝見したいと思いました。

○中村委員長

菅原委員をお願いします。

○菅原委員

この番組を見て「何が何でも勝ち負けだ」という印象がありました。この番組に限らない私の印象です。一般的に地味にやっている人たちもたくさんいる訳です。最近のテレビや新聞は「勝った、負けた」ということばかりを取り上げています。

ふたつの面があると思います。イチローや松井がヒットを打つと素直に単純に嬉しいですし、オリンピックも国同士の戦いなので日本が勝つと嬉しいのです。岩手では花巻東の活躍なども、なかなか甲子園で勝てなかった地元としては考えられない様な事でした。素直に嬉しいという気持ち、良く頑張っているなという気持ちと、反面勝ち負けだけにスポットを当てることにどうなのかという気持ち、と両方あるわけです。将棋の高校生もすご

と思いますが、その陰に勝ち負けに関係なく、頑張っている人たちがたくさんいますし、そちらの方が多いわけです。

今回はあくまで勝ち負けをメインにして「羽ばたけ、がんばろう」という番組なのだと思います。番組を見て「私も頑張ろう」という人もたくさんいるでしょう。でも「俺は駄目だ、あんなことは出来ない」という人もたくさんいると思います。一般的にも強い者が勝つという報道が多いのですが、特にスポーツ報道は少しやり過ぎだと思います。

みんなが頑張って偉いということも事実ですが、勝ち負けだけではない、ということがあるのも事実なので、その両方の複雑な気持ちで番組を見ておりました。

難しい話しをしましたが、素直に岩手の若い人は皆頑張ったということで、この番組に関してはそれで良かったと思います。中途半端な意見になってしまいましたが、詳しい分析は他の委員の方にお任せしたいと思います（笑）

○中村委員長

では、八木橋委員お願いします

○八木橋委員

番組のまとめ、取り上げた基準など、非常に評価をしにくいという印象です。振り返ってこんなことがあったと思ひ出させる趣旨なら、それでいいのかもしれませんが。

花巻東の活躍はみんなが知っていることですが、スポーツや文化部だけではなく、農業高校の有機栽培や水産高校の人工養殖などの実生活に根ざした部分が抜けているような気がしました。あとは、若者といいながら大学が抜けていました。スポーツや文化だけではなく、実生活に密着して地道に取り組んでいる人たちの、将来性のある部分を取り上げてほしかったと思います。何か将来、岩手の人々の実生活に大変な影響を与えそうな人たちも取り上げていたら、後々にそのことが成功した際には、番組を作るうえで、めんこいテレビの貴重な記録になると思います。

雄星君も偉いけれど、それに匹敵するかそれ以上の地道な努力をしている若い人が他にもいるわけで、そういった人たちも公平に取り上げていただければ、さらに良かったと思います。

○中村委員長

齋藤雅博委員をお願いします。

○齋藤雅博委員

昨年活躍した岩手の若者たちを回顧するという意味では、私も「そうだったね」ということで、番組を見ることができました。昨年は花巻東高校の活躍で盛り上がりました。佐々木監督がその中で「多くの選手が大学に進学して地元に戻ってきて底上げをしてほしい」と言っていたと思いますが、その通りだと思います。グルージャ盛岡もリーグ優勝を続けていますが、昇格の壁は厚いと思いました。スポーツの中ではマイナーな登山を取り上げたのは非常に良かったと思います。私も社交ダンスにあのような方がいたのは全く知りませんでした。若者で輝いている人はもっとたくさんいると思います。報道部のニュース素材の中から編集をしたということで難しかったと思いますが、そうした人も取り上げてほしかったです。

「羽ばたけ」ということで若者へのエールだったと思いますが、やはり何か物足りなさを感じました。スポーツが多く紹介されていましたが、岩手自体がスポーツは低迷していると私は思っています。この番組に出られるような若者がもっと増えれば、岩手のスポーツはさらに良くなるだろうと思います。岩手国体を控え、スーパーキッズの活動もありますが、岩手のスポーツ界の課題のようなことを引き出せなかったか、浮き彫りにできなかったかという気がしました。編集での限界はあったと思いますが、訴えたいもの、課題などをもう少し鮮明に出してくれた方が良かったと思います。

○中村委員長

中原委員をお願いします。

○中原委員

スポーツ、芸術、文化を30分で取り上げて紹介してくれたことで、「岩手の若者も大したものだ」という思いを新たにしました。正月の2日の朝に、明るい話題を取り上げていただいたことと、番組自体の長さも飽きることがない長さで良かったと思いました。

幅広く取り上げたことは良かったのですが、取りこぼしはなかったのか？ 今まで報道で取材したものを使ったということで、やむをえないと思いますが、取りこぼしがあつたら、その人たちに気の毒だと思いました。

この番組の中にいろいろな言葉が出てきました。そのなかに「野球はエースだけではない」という発言がありました。そういう言葉を取り上げておきながら、番組では雄星君をかなり出していることにチグハグという思いがありました。

希望として、スポーツで1本、文化芸術で1本、最低でも2本ぐらいは番組を作ってもらうと、それぞれの世界でピックアップできる人が出てきたと思います。岩手にはまだまだ若い人に可能性があるという励ましの意味では、いい番組でした。

他の委員の方からもありましたが、リアルタイムの部分もほしかったと思います。インタビューなどで、何人かの「今年こそは」というコメントを入れてもらえれば、インパクトがあつたと思います。

男子の新体操は、2008年の国体を最後に国体の種目からなくなりましたが、そういったこともフォローしておくと思つたと思います。

○中村委員長

村上委員をお願いします。

○村上委員

お正月の午前中の番組として、非常に爽やかな印象をもって見ました。去年は花巻東の活躍抜きには考えられませんでした。それをきっかけに岩手の若者も頑張っているという印象をもって、去年が終つたような印象があります。

ニュース素材を再構成するという厳しい条件の中で、高橋裕二アナウンサーのスタジオサブを使った導入部分やスタッフが機材をもって走り出すなど、演出に工夫がされていました。

その中で、いろいろなジャンルから選んだという意味では、情報として視聴者にはインパクトがありました。さわやかな作りだという印象があります。「FLY」という文字が画面に出ていて、BGMもそれに合つて良かつたと思います。文字のデザインや舞うような演出も良かつたと思います。限られたニュース素材を演出して工夫したという制作者の意図を感じました。

スポーツは8人、文化の3人というバランスは難しいと思つました。富士大学や花巻東は全国的な成績を上げましたが、それ以外にも目を向けていくことも大事だと思つました。岩手高校の将棋はすごい記録だと思つましたし、盛岡二高の箏曲部も歴史と伝統がありますが、どちらもあまり表に出ることがない部活だと思つます。ここまで広げて取り上げたことは良

かったと思います。番組を見たお父さんやお母さんたちも大変喜んだと思います。「うちの子供たちも頑張れば何とかなる」そんな気持ちになったと思います。

○中村委員長

東海林委員お願いします。

○東海林委員

番組を見る前に「これは雄星君だ」と、どなたも思ったと想像がつきます。番組になった時に雄星君と他のアスリートとのバランス、分量をどのように構成するのかと思って見ました。まずジャンプの小林選手が来て、東京マラソンの那須川さんが来て、那須川さんが東京マラソンで優勝したことを知って、これまであまり取り上げられてこなかったのかと意外に思いました。冒頭の構成は番組に期待を持たせるものでした。

社交ダンスの大人の競技会には女子フリーの部門がありません。ペアの男性がいないと競技を続けることができません。そういう中で高校生が社交ダンスで頑張っていることに「すごい」と思って見ました。そうした部門を作ってくれたことは、若い人の社交ダンスを応援する意味では良かったと思います。

番組の作り方としては、お正月番組なので、一番最後に社交ダンスをもってくるのではなく、ロンドンオリンピックに期待をかけた那須川さんを最後にもってきて応援するという構成が良かったように思いました。

○中村委員長

吉田委員お願いします

○吉田委員

「1年間の若者の活躍を振り返りましょう」ということでしたが、視聴者のひとりとして素直に去年はこんなことがあったと振り返りながら見ました。岩手県民という立場から見ても、さまざまな場面で勇気と感動をもらった1年でした。

現在の社会が不景気ということもあり、暗い、重いニュースが多い中で、スポーツでの活躍、若者の活躍は社会に元気を与えます。そういう意味ではテレビの力は非常に大きいと感じました。

全体の中でインパクトがあったのはなんと言っても花巻東の菊池雄星君でした。たしかに雄星君が出る場面が多かったわけですが、彼の言葉使いや態度を見ていると非常に好感がもてました。そういった雄星君の姿は、同世代の人たちにとっても、親御さんが見ても、「若者のマナーのひとつ」を教えてくれているのだと思います。そういう意味で、皆さんに与える影響が大きいと思いました。もちろん勝ち負けではないわけです。

印象的だったのはジャンプの小林選手が「雄星君に負けないように頑張りたい」と言っていたことです。雄星君を見て、次の世代の人でも頑張ろうと思っているわけです。マラソンの那須川選手が出てきたように、岩手から世界を目指して頑張っている選手が出てきていることは県民にも感動を与えています。人間には帰属意識があると言われていますが、岩手出身の人が日本一、世界をめざして頑張っている姿を見て、我々は誇りを感じます。スポーツと文化、芸術をうまくミックスして取り上げたことは良かったと思います。1年間を通して、若者たちの活躍がバランス良く紹介されていました。

印象的だったことは花巻東の佐々木監督の「野球だけではなく、選手たちが地元に戻ってきて教師になったり、いろいろな場面で活躍してほしい」と言っていた事です。見ている人にとって非常に良いことを語っていると思いました。非常に素晴らしい番組だったと思います。

○中村委員長

椎井副委員長おねがいします。

○椎井副委員長

正月番組で30分という限られた時間の中で活躍した人たちを視聴者に紹介するという狙いからすれば、総花的という印象はありましたが岩手の若手の活躍ぶりがぎっしり詰まっていて大変楽しく見る事が出来ました。こんなにスポーツや文化の面で岩手の若手が活躍していたということは知りませんでした。改めて岩手の人たちの底力を見せられて、元気ももらいました。

個人的には野球の花巻東やサッカーのグルージャ盛岡は何回も目にしているので、少し見飽きた感じで新鮮味はありませんでした。その他に、報道の回数が少ない登山、女子ボート、社交ダンス、箏曲などが紹介され、日頃の努力や喜びが紹介されていて良かったと思います。

あまり目にしないスポーツや文化をもう少し掘り下げて紹介してもらっても良かったと思います。スポーツでは優勝、準優勝、最優秀賞ということで日本一、トップを極めたものだ

けの紹介をしていました。例えばラグビーの釜石シーウェイブスがもう一步というところでトップリーグに上がれなかったということがありましたが、次回はそういったチームを応援する意味でも、もう一步でトップを極める事ができなかったというようなことも取り上げる番組を、ぜひ作っていただきたいと思いました。

番組を見て感じてことは、素晴らしい選手の陰に必ず良い指導者がいるということです。そういった指導者を表に出すのも面白いと思います。私達は経営者として、社員のモチベーションを上げる方法で悩んでいることもあります。そういった意味で実績を上げた指導者の指導方針、工夫、苦労話を取り上げて面白かったと思います。

トップを極めた選手が次にどのような道を歩むのかを考えると、高校生の場合は東京の大学や企業に就職するケースが多いです。本当は大学を卒業した後、故郷に戻ってきて後継者の育成に力を注いでもらえれば、岩手の活力に結びつくのではないかと思います。それは我々大人の世界の大きな責任でもあったと思います。

○中村委員長

この番組を見て、岩手には素晴らしい素材をもった子供達がたくさんいることを感じましたし、頼もしく思いました。スポーツや文化の面でも非常に頑張る、素直に頑張る子供達がいることがこうした素晴らしい結果を出していると感じました。

全体を見て、「いいんだけど、何だろう」という感じを持ちました。素材的には文句のつけようがありませんし、みなさん素晴らしいのですが、いい素材だけが並んでいて、「どうぞ召し上がりください」と言われているように感じました。美味しいけど何かもう少し味付けがあっても良かったのではないかと思います。委員の皆さんからは、いろいろなヒントを出していただいたので、次回の番組に生かしてほしいと思いました。

スポーツに関してはこれだけ素晴らしい素材があるわけですが、岩手のスポーツをもっと良くするには、どうすればいいのかという事があると思います。スポーツは地域興しにもなっています。岩手国体もあるわけで、こうした選手や指導者を中心にどうやって底上げしていくのか？小さい頃からスポーツや文化活動に親しませ、本来持っている素朴な才能にどうやって磨きをかけていくのか？そうしたことに岩手にいる我々がどうしたら力を尽くして行く事ができるのか？というようなことを、番組を見て感じました。そうした視点から番組で、もう少し掘り起こしをしていただければいいのではないかと思います。

この番組は正月番組としては、岩手の子供達の1年間の活躍を振り返るという意味では大

変い番組だと思います。今後、もう一工夫、二工夫してもらえると、もっとも味のあ
る番組になると思います。

それでは、欠席委員からのレポートがあれば事務局から報告をお願いします。

○事務局

久慈委員のレポートです。

まずは、輝く岩手の若者たち、というと、どうしても花巻東のナインを思い浮かべますが、
今回のこの番組では、最初にしっかりと全ての活躍した若者たちをピックアップして紹介し
いたことが素晴らしいと思いました。

花巻東をはじめ、様々な活躍を紹介してもらえて、あらためて岩手のスポーツもこれから
期待が持てると感じました。

スポーツだけではなく、文化・芸術の分野もしっかりと紹介をしてくれたのもありがたか
ったです。それにしても、久慈市、八戸市の高校生社交ダンスの女子二人組の活躍は知りま
せんでした。こういったところを通常のニュースでもどんどん取り上げてもらえればうれし
いですね。

1つだけ残念だったのは、二戸市の石切所小学校のマーチングバンドが全国で金賞をもら
ったのですが、それが紹介されていればもっと嬉しかったです。小学生だから今回は対象外
だったのでしょうか。それにしてもお疲れ様でした。

・役重委員のレポートです。

「あけましておめでとうございます」のアナウンスから、お正月番組として昨年の岩手を振
り返る趣旨と理解しましたが、いまいち企画の意図が不明瞭だったように感じました。テー
プ保管庫からの場面で始まることに象徴されるように、今までの撮りだめの中からいいとこ
どりして編集し、とりあえずナレーションつけて流してみたいな、こう言っては何ですが『お
手軽』な印象もありました。

経済低迷、社会不安、暗い深刻な話題ばかりに目をとられるのではなく、新年に当たって
明るい、若い力を前面に出して爽やかに1年をスタートしましょうという気持ちはよく伝わ
るのですが、であれば、もう少し違う切り取り方もあったのではないのでしょうか。

画面に登場した若者たちは、確かに折り目正しく、努力に努力を重ねる姿勢で我々の共感

を引き出しますが、スポーツ系にしる文系にしる、言ってみればまあ「エリート中のエリート」なわけです。こういう言い方は何の才能もなく地味な青春を送った者のヒガミかも知れませんが、というよりハッキリ言ってひがみなんです（笑）、30分を見終えても「ああ、すごいな。やっぱりすごい人は違うな」で終わってしまうのです。取り上げるならもう1パターン、ごく身近にいて目立たないけど頑張ってる「普通の」若者がいてほしかった。自分に重ねて、引き寄せて、自分ももう少し頑張らなくちゃ、頑張ればいけるかも、と思わせる「何か」を見せてほしかったなと思います。

「何か」とは何でしょうね。それはカッコよさではなくカッコ悪さ、みっともなさ。失敗や涙、恥、嫉妬心とか自己嫌悪とか、人間らしいドロドロの部分かも知れません。もちろん正月からドロドロしすぎるとまずいと思いますが、爽やかなだけでは物足りない。ドロドロは、ちょこっと効かせるスパイスのような、エッセンスのようなもの。これは番組づくりだけじゃなく、日頃の人と人との関係とか、人生とか、そんなもののエッセンスなのかも知れませんね。

以上です。

○中村委員長

分かりました。それでは、これで本日の議事を終了とさせていただきます。

○事務局

中村委員長、ありがとうございました。それではこれで番組審議会を閉会とさせていただきます。

なお、今回の審議会の模様は3月20日（土）朝4時42分から「めんこいテレビ番審リポート」として放送いたします。

次回は4月13日（火）に開催となりますので、よろしくお願い致します。

7. 審議機関の答申又は改善意見に対してとった措置

特になし

8. 審議機関の答申意見概要を公表した場合におけるその公表内容、方法及び年月日

* 平成22年3月10日（水） 産経新聞 東北版

* 平成22年3月20日（土）午前4時42分から4時45分まで「めんこいテレビ審りレポート」内で放送

* 据え置き書類を作成し、本社受付に置き一般の人々が自由に閲覧できるようにした

9. その他の参考事項

特になし